

思いを伝えるということ

この夏、東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。私たちの先輩、大矢勇気選手がパラリンピック陸上男子100m 車イス T52のクラスで、見事銀メダルを獲得されたことは、みなさんご存知の通りです。この場をお借りして、あらためてお祝い申し上げます。

大会期間中、参加したアスリートはもちろん、報道関係者、たくさんのボランティアのみなさんによって、大会を通じた日本の様々な姿が、SNS を通じて世界中に発信されました。今日はその中で最も私の心に残ったエピソードを紹介します。

パラリンピック陸上・男子走高跳(義足 T63クラス)のサム・グリュー選手(米国)は、競技が始まる前にスタッフから受け取ったある手紙をツイッターに公開しました。差出人はグリュー選手と同じ障害の子どもを持つ日本人スタッフで、そこには英語で次のように書かれていました。

「私は13歳の息子の父親です。私の息子は10歳の時に右膝の骨肉腫を患い、手術を受けました。手術についての詳細は知っていましたが、日本では手術の後どうなっていくかの情報が少なく、私はとても心配でした。そんな中で走高跳の世界王者であるあなたを SNS で知りました。あなたは私たち家族に大きな勇気を与えてくれました。本当に感謝しています。息子はテレビで見えています。みんなで応援しています。グッドラック!」

グリュー選手はこの手紙を写真で紹介するとともに、ツイッターでこうつぶやきました。

「勝ったとしても負けたとしてもこれが全てである」

グリュー選手は、自分の取り組みがこのように他者に勇気を与えることができたということが、競技の勝ち負けよりもずっと大切な価値だと感じたのだと思います。こうして、グリュー選手を通して、ある家族の感謝の気持ちが全世界に発信されました。グリュー選手はこの後金メダルを獲得し、日本の家族の応援に見事に応えました。

この話には、コミュニケーションのための、二つの道具が出てきます。一つは手紙、もう一つはツイッターといういわゆる SNS です。手紙はある人からある人に向けて、その思いを直接届けるという役割を果たしました。SNSはある人が抱いた思いを、見知らぬたくさんの人に届けるという役割を果たしました。それぞれの道具は、その目的を果たすためには最も効果的なものであったのだと思います。誰かに何かを伝えたいと思ったとき、何を、いつ、どうやって伝えればいいのか。その答えの一つが、ここにはあります。そしてもう一つ、これは一番大切なことですが、手紙と SNS によって、日本の少年とその家族、グリュー選手自身、グリュー選手の SNS を見た多くの人々の心が温かくなって、幸せになれたということです。

伝えることと伝えられること。私たちが生きていく限り、最後まで向き合う問題です。手紙のように昔から続くものも、SNS のように新しい技術も、どちらもその特長をよく理解し、こんな風に人を幸せにしたり、人の心を豊かにしたりするために使えるようになりたいですね。

令和3年9月24日

兵庫県立西宮香風高等学校
校長 谷口 暢謙